

## 20 . ケインタの伝説 (リサール州)

昔、リサール州の小さな村に、美しいが、年取ったジャシントという名の女性がいました。彼女は、その親切な心と寛大さで知られていました。ジャシントは、数年前、彼女の両親が亡くなってから、彼女の小さな家に、ひとりで住んでいました。ジャシントには夫も、子どももいませんでした。彼女が若い少女の時、町の少年と悲しい恋に落ちました。しかし、彼は、彼らが結婚する前に、農業の事故で殺された、と言われていました。その日から、ジャシントは、他の男のことを考えていません。

人々が知る限りでは、ジャシントは、彼女の人生を、彼女の属する地域の、あまり幸福ではない人々を助けるために、ささげることにしていました。

ほとんど毎日、彼女は貧しい、その地方の子どもたちを彼女の家へ招待して、安心してそこで遊べるように場所を提供し、彼らが、おいしいと感じる食事を与え、数日の間、彼らの空腹を満たしてやるのでした。

毎週日曜日の朝、ジャシントは、教会のミサから帰ると、長い人の行列が、彼女の家の外で待っていました。彼らは貧しい人々で、幸福から見放された人、路上の子どもたち、生活困窮者などでした。彼らがたとえどんな人でも、ジャシントは常に、いつでも彼らの問題を聴いて、彼らに食物、衣服、お金、またしばらくの避難所も与えることで、助けていました。

この小さな女性の大きな心に含まれる愛と思慮は、伝説に名高いものでした。

いつもクリスマスの朝、深夜ミサの後でジャシントは、家に多くの不幸な人々を招き、家に用意していた食べ物を与え、衣服のプレゼントをしました。子どもたちに与えるために、多くのお菓子、キャンディ、そして、おもちゃを常に用意していました。

彼女の無限の親切さのため、立派なジャシントは、みかえりを何も要求しませんでした。彼女のフィリピンの神話と伝説 20 . ケインタの伝説

報酬は、彼女の寛大さによって、いろいろなものを与えられた人の顔に現れる喜びの微笑や涙を見ることでした。

町の人々は、ジャシントのことを敬称で「カ、インタ」と呼びました。「カ」は、フィリピンの言葉で、尊敬を表わす言葉であり、「インタ」は、彼女の名前を略しての言い方です。

何年も経って、その言葉「カ、インタ」は、リサールの貧しさと愛と、求めている希望と救いのシンボルになりました。

あるクリスマス。年取ったジャシントは、いつものように、教会の深夜ミサに出席しました。そして、いつものように、ジャシントは、帰る時、何十人もの不幸な人々を家に招き、家にはたくさんの食べ物や、彼らへの贈り物がありました。

ジャシントは、まず先に家に帰って、食事の用意をし、招待していた人々に、しばらくしてから家に来て、ゆっくり過ごすように言いました。

招待されていた貧しい人々、孤児、病気の人々、また老人たちが、ジャシントの家に着いた時、彼らは何日も、クリスマスの最初の食事を食べることを切望していました。また何人かは、何週間をそれを待っていたので、彼らは丁寧に彼女の家の戸を叩き、中に招かれるのを待っていました。

しかし、家の中からは何も答えもありませんでした。人々は、「カ、インタ!カ、インタ!」と呼びました。しかし、まだ答えはありません。貧しい人のひとりが、ゆっくりとジャシントの家の戸を開け、中をのぞき見ました。彼は、床に倒れているジャシントを見て驚きました。彼と他の待っていた人々は急いで彼女の家に入り、命の切れたジャシントをよく見ました。彼女は自然死でした。

料理された新鮮な食事と、たくさんの贈り物が、ジャシントの横たわって死んでいる部屋いっぱいがありました。しかし、貧しく空腹な人々は、急に食欲がなくなり、愛されたジャシントは埋葬され、平安の内に休むまで、何にも触れないことに決めました。

伝説の「カ、インタ」の思い出と、喜びと幸福

の名誉を、彼女は、この世での何年もの間、何千もの不幸な人々に運びました。そして町の人々は、彼らの町の名を「カインタ」と改めました。今日、私たちは、この町を「ケインタ」として、知っています。